

安倍晋三政権のすすめる医療と介護の制度改革について、厚生労働省の審議会での議論が年内となりました。結論が出れば来年の通常国会に閣議決定案を提出するほか、来年度から実施するものもあります。負担増や保険給付制限などが次々提案される中、国民の批判で見送った案もありますが、暮のじに影響を与える多くの改悪を行なっていません。負担増などが実施されれば経済的事情で医療や介護を受けられない事態を深刻化させます。医療・介護・年金など社会保障大改悪を阻むたたかいを広げることが急務です。

#### 「工程表」の危険まさもれ

厚生労働省の社会保障審議会の部会

## 主張

### 医療・介護の改悪案

では、医療・介護の利用者負担のあり方、保険給付の範囲の制限などについて多岐にわたる項目が提案され、具体化がすすんでいます。

介護保険で要介護1～同2の「軽度者」むけ生活援助サービスを一本方針で、16年度から3年で社会保障給付から外すなどの案は、国民の批判の広がりで今回見送る。

## 削減ありますで暮らしを壊すな

なまじしました。しかし厚労省は、代わりに新たな利用抑制案などを、などによる自然増は年一兆～80持ち出した上、他の多くの改悪案はあくまで実施する構えを崩しておらず、負担増と給付減を押し付けるやり方自体を改める姿勢はありません。

「工程表」の危険まさもれ

なまじしました。しかしこのままでは、年金額改定ルール変更も、工程表の一環です。社会保障の安

心と安全を揺るがす工程表は撤廃

が求められます。

16年度予算では自

然増の容赦ない削減

によって、診療報酬

がマイナス改定され医療現場に苦難と困難をもたらしました。17年度予算では厚労省の概算要求段階で6400億円に抑えた自然増を

を機械的に5000億円に抑制す

るのは、乱暴極まるやり方です。

削減を推進する段取りを明記し

た「工程表」も昨年末に閣議決定

しました。厚労省の審議会で示さ

れている改悪案のほとんどは工程表の具体化です。経団連や財務省の方針が根本にあるからです。安

どが、負担増や給付削減を繰り返し迫る根拠にしています。衆

院で審議入りした「年金カット法

案」の年金額改定ルール変更も、

工程表の一環です。社会保障の安

心と安全を揺るがす工程表は撤廃

再生と拡充に転じてこそ

負担増などで国民が必要な医療や介護から締め出されれば、重症

・重度化が進み、かえって将来の社会保険費を膨張させかねませ

ん。“削減ありき”的やり方の矛盾は明らかです。製薬大企業のも

うけのための高薬価を根本的に見直すなど税・保険料の使い方、集

め方をあらため必要な予算を確保

し、社会保障を再生・拡充させる

ことが不可欠となっています。

軽減措置の撤廃、70歳以上の高齢者の高額療養費の月額上限引き上げ、介護では高額介護サービスの月額上限引き上げなどです。

まさに手あたり次第です。高齢者をはじめ国民の暮らしの実態を無視した改悪は中止すべきです。